

県内外国人支え20年

徳島県内に住む外国人に日本語を教えている市民団体「JTMとくしま日本語ネットワーク」が設立20周年を迎えた。日本語が十分話せない外国人技能実習生への支援を皮切りに、就職を

目指す人や子どもへの指導などにも活動を拡大。これまでに教えたのは約20カ国の延べ3000人以上に上り、地域に溶け込み社会参加できるよう、大きな役割を果たしている。

日本語指導「JTMとくしま」



外国人に日本語を教えるJTM会員＝8月24日、徳島市内（JTM提供）

JTMは1997年を充実させてきた。6月、主婦や元教員ら会員9人で発足し、企業に出向いて外国人技能実習生への語学指導を開始。多様なニーズに応えられよう、会員を増やしながら活動と、小中高生を対象に

した「にほんご寺子屋」を開講。サロンでは生活に関する相談にも乗っており、毎回5～10人の外国人が参加する。寺子屋は5人前後が受講し、一対一で個々のレベルに合わせて教えている。

近年は就職の支援にも力を入れる。県労働者福祉協議会が2009年度から開いている日本語講座に講師を派遣しており、ビジネスマナーや面接での受け答え、態度なども教える。16年度までの8年間に中国やフィリピンなど16カ国の186人が学び、うち59人が介護施設やホテルなどに就職した。

15年度に受講した中国遼寧省出身の任恵絹さん(37)＝徳島市福島1＝は昨年4月、同市

20カ国3000人 社会参加後押し

内の企業に経理担当として就職が決まった。「今の仕事に就けたのはJTMの先生が丁寧」に教えてくれたおかげ」と喜ぶ。

法務省の統計によると、県内在住の外国人は16年12月末時点で5476人。JTMの兼松文子会長は「縁あって徳島で暮らす外国人の役に立てるよう取り組んでいきたい」と話している。

(木村恭明)

来月22日記念講演

JTMは、設立20周年を記念した講演会を10月22日午後3時半から県国際交流協会で開く。国際日本語普及協会(東京)の関口明子理事長が、日本語教育に長年携わってきた体験を語る。入場無料だが申し込みが必要。締め切りは同17日。問い合わせは事務局の県労福協(☎0888(625)8387)。